会報
日本勤労者山岳連盟（富山県連盟）
新日本スポーツ連盟
三島野スポーツクラブ

No. 219
2018年12月1日
代表　岩井　富雄
射水市宝町1364-35
TEL・FAX 57-8180

白馬鑓ケ岳と村営頂上宿舎　小木　清　画

12月・1月の企画案内

12/15　忘年会

1／1　恒例 元旦二上山
1／19　雪上ハイク
　　吉峰グリーンパーク

第21回定期総会

２／３（日）
古洞の森

報告
北陸地区登山技術研修会

山行報告

２０周年記念企画
浅　間　山
天　蓋　山

12月・1月
企画案内

＼やってきました！／ 忘年会!!

○12 月 15 日（土）　午後 6 時 30 分

○しな乃　高岡えんじゅ通りホテルニューオータニ 向い

○会　費　5,000 円

○参加申込　12 月 5 日（水）までに堀井泰則へ

SMS 090-1314-6394　or FAX 0766-25-2792

多数の会員の御参加をまっています
　にぎやかに 2018 年を〆ましょう　そして 2019 年を語りましょう！

1／1(火)

新しい年の初めに、こころ新たにして山を歩き、
2019 年の安全登山とそれぞれの願いを祈りましょう

元旦恒例

二上山

5 時 30 分に城光寺球場駐車場に集合し、出発し、7 時頃に二上山山頂を予定しています。

事前の参加確認はしませんので、参加希望者は出発時間に来てください。尚、他のルートから登られるのも自由です。7 時に山頂で落ち合いましょう。〈L〉は的場邦夫です。

2017 年元旦　二上山山頂にて

1／19(土)

吉峰グリーンパーク雪上ハイク

【集合・出発】8 時 00 分　薬勝寺池 P
カンジキまたはスノーシューを装着して吉峰グリーンパークの遊歩道コースを歩きます。
【参加申込】1 月 9 日まで
詳細は次号会報№220 で案内します

第21回定期総会の案内

と　き：2月3日（日）10時より

ところ：古洞の森

第 20 回総会の風景

終了後、懇親会を行います。

予め日程をお知らせし、予定に組み込んでいただき多くの会員が会する機会となるようになればと思っています。

詳細は次号会報№220 でお知らせします。

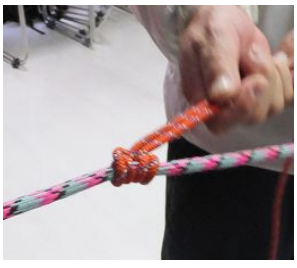
報告　第5回北陸地区登山技術研修会

11/23（金・祝）　富山市婦中ふれあい館

参加者：岩井富雄、荒井英治、川渕順正、新田俊明、林　憲彦、
堀井泰則、的場邦夫、山本則夫、加藤日出子、甲かほる

石川県、福井県と富山県の労山県連合同の研修会は６５名の参加で開催されました。午前は愛知県連盟・半田ファミリー山の会の洞井孝雄さんの講演「安心登山 ABC」、午後はザイルワークと装備とザックのパッキングの分科会に分かれて参加しました。

講演は①「安全登山」と「安心登山」　②登山 人間にしかできない遊び、文化、スポーツ　③安心登山の基本―計画を立てること　④計画書をつくる　⑤計画を第三者に伝える(計画書を残す、登山届を出す　⑥転ばぬ先の杖と知恵　⑦パーテェーとリーダーという基本的な事柄・項目について話されました。



ザイルワーク分科会では簡易ハーネスの作り方とそれを使ってのザイルワーク（急斜面のトラバース、危険個所の登り、下り）ザイルの結び方、支点の取り方、確保の仕方など実践的な講習でした。クラブの山行でも、危険な登り下りや恐怖を感じたときの対応に必要なことがあることも想定して学ぶことが大切だと感じました。

北陸地区登山技術研修会（登山装備講習会に参加して）

川渕順正

11 月 23 日勤労感謝の日に婦中ふれあい館にて、第 5 回北陸地区登山技術研修会に参加の機会を得た。講師は元労山副会長の洞井孝雄さんで、現在でも岩登りや沢登り、雪山など様々なジャンルでの登山活動、教育、啓蒙活動を続けていらっしゃる、言わば登山のオーソリティです。富山県、石川県など 60～70 名が参加した。

午前中は「安心登山のＡＢＣ」について有益な講義があり、午後からは三つのグループに分かれ、「簡単なロープワーク」「山でバテない歩き方」「装備の点検」のテーマでそれぞれ実技講習となった。

私は「装備の点検」のグループに入ったので、そのことを以下に記します。講師は引き続き洞井先生。

先ず各自持参したザックをテーブルの上に置いて、まず指摘されたのはザック外部に取り付けられたカラビナ・スリングや敷物、ヘルメット他マグカップの類。山行の小休憩時にすぐ使用できるようにとついザックに下げたりしがちだが、すべてザック内部に収納するようにとの指摘。

「敷物が大きくて入りきらない」の主張に、先生自らパッキングし直された。そしたら全て納まり、ザックにまだ余裕さえできた。そのわけはスタッフバッグ類は寝かせないで縦に収納すること。こうすることでザック内が上部から一見出来、必要なものはすぐ抜き出せるとのこと。また「クマ除け鈴」についても独り山行以外は慎むべしと…。

この後、各自のザック内の収納物を全部出して、それぞれの持ち物点検になった。ザックの中に何を詰めていくべきか、限られた容積内に何を優先させるべきか、誰もが関心のある所でもある。

テーブルに広げられた各自の持ち物を順に一つ一つ点検され、指摘や指導があった。傍らで観ていると、自分にとって足りないものが多く、また今はこんな便利なものがあるのかと感心させられることもしきりで、大いに参考になりました。

そして折に触れ先生が話されるのは、「なぜ必要か、どのように使うのか、何のために持っていくか」の観点です。そして個人がこれだけは、いつでもどこでもどんな場合でも持っていきたい最小限の装備を『装備のベーシック・ミニマム』と称して約 25 項目の装備品を挙げられました。中にはカラビナ・スリング、メタ＆メタ台も…。

「それは重いし、使わないし…」と思いがちである。が先生は「いや、使わないために持っていく装備もあります。一見多そうだが、それでも重さの概測は 2,800g 程度で済む。」そうです。またスリングやロープは持つだけでなく、使い方を知っていることが前提。

山行で最低限の装備を携行しなくても、何事もなければ気づかないまま済ませる。そして次の山行でも、また次もこれが繰り返される。しかし何かあったときは、認識の甘さが一気にクローズアップされ、仲間や自分の命にさえ関わって、後で大きな後悔に繋りかねないことを学んだ講習会でした。

以上。

山行報告

10/27(土)～28(日)

三島野スポーツクラブ
発足20周年記念企画

前掛山　2524m

秋色の上信越の山旅　浅間山と高峰高原散策

メンバー：（L）堀井泰則　小坪哲彦　的場邦夫
新田俊明　山本則夫　加藤日出子　守田清子

【行程記録】
10／27（土）
5：25 薬勝寺発 → 布引観音 10：00～11：10 → 車坂峠 昼食 12：00～12：45 → 高峰山登山 12:45～13:35 → 池の平湿原散策 15:00～16:00 → 16：30 高峰高原ホテル着
10／28（日）
4：40 高峰高原ホテル発 → トーミの頭 6：20～6：40 → 草すべり → 7：35 湯の平分岐 → 前掛山登山口 7：55～8：05 → 9：30 避難シエルター → 前掛山山頂 9：55～10：00 →避難シエルター10：30～10：45 → 前掛山登山口 11：30～11：45 → 仙人岳 13：20～13：35 → 14：00 蛇骨岳 → 14：50 黒斑山 → 16：30 高峰高原ホテル着　入浴 → 17:35 高峰高原ホテル発→ 21：50 薬勝寺着

浅間山（前掛山）頂上

左・布引観音にて
下・高峰山登山口

ひとくち感想

的　場：高峰高原ホテルを出発し中コースを選択した。トーミの頭の手前の開けた所で日の出を見る事が出来ました。又、雲海も素晴らしくこれから先の山行が楽しみになる。草すべりを下り、湯の平分岐から避難小屋までが太陽が山の陰になり、時折吹く冷たい風にさらされ難儀した。避難小屋から頂上までは太陽が当たり気持ちがよかった。登山者（若者）がひっきりなしに登って来るのでメンバー一同驚く。リーダーに天候が良いので外輪山コースを行きましょうと進言したが、これが意外とアップダウンが有り岩場も有り、見た目よりも長く時間がかかったが、晴れていたので展望もよく浅間山を満喫した。リーダーとメンバーに感謝！！です。

小　坪：三島野ＳＣでは屈指のリーダーのもと、中身のある奥深い山行でした。今年の山行は小学生との立山登山、20 周年企画の白馬岳～朝日岳縦走、そして今年 3 回目の登山となる今回の浅間山。73 歳となった今、一日 12 時間に及ぶ山歩きについて行けたという自分の気力＆体力に感慨深いものを感じました。また来年も登れるかな？との気持ちを彷彿させる機会を得られたことが大収穫でした。山行パートナーの皆さん有難うございました。

新　田：小諸に着くと天気は秋晴れ。二日目は外輪山の尾根に出ると我々の到着を待っていたかのようなジャストインタイムのご来光と富士山を仰ぎ、雲一つ無い絶好登山日和。浅間山とその外輪山の雄大さと裾野一面に広がる唐松の見事な紅葉が 12 時間も楽しめた記憶に残る山旅でした。

加　藤：トーミの頭で good timing のご来光に感激！快晴に恵まれ黄金色のカラマツ紅葉と富士山に雲海も最高だった。浅間の壮大な山々を無事下山しハイタッチで喜び合った。

山　本：朝起きると雨でしたが、現地に着くと曇り空から晴れとなり、標高 1300m前後で紅葉が真盛り最高気分！浅間山登山では、約 12 時間の歩行により膝の回復にも少し自信が付き、次年度の登山に向け早速靴を買ってきました。

堀　井：浅間山は大好きな山の一つです。車坂峠から登って稜線に出た瞬間に視界いっぱいに眼に飛び込むでっかい山容は、美しくダイナミックで初めて見たときから私のココロに立山・剱岳・富士山と同列に沈着しています。初冠雪時や残雪時に現れる縞模様の浅間山の姿の美しさは筆舌に尽くしがたいものを感じ、その姿を見たさに登ったこともありました。雪のシャッポをかぶった富士山と並ぶ“日本の山”として私は心に刻んでいます。体力が著しく劣化している今、リーダーとして参加したもののその責務を遂げられるか不安を胸に歩きはじめました。が、予報はずれの好天に恵まれて外輪山を巡る「浅間山フルコース」を登り歩ききったことがとてもうれしかった。また、今回初めてかつての火山火口だった標高 2100m湯の平の落葉松の黄葉と仰ぐ浅間山と 3 万年前の爆発した爆裂火口の荒々しい岩肌の景観のすばらしさをあらためて知ることができました。

「牛にひかれて善光寺」のいわれある布引観音の絶壁の岩をくり貫いて造られた御堂拝観や高峰山・池の平湿原を歩いた一日目の行程と使い慣れないナイフとフォークを駆使してのホテルの食事など充実した“秋の信州の山旅”となりました。

急な下り“草すべり”を下る

感動と絶景の浅間山 ―20周年企画に参加して―

守田 清子

私は、浅間山に思い入れがありました。物心ついたばかりの頃に、祖父に連れられ小諸の親戚を訪れたことがありました。煙を上げる浅間山が、地元の山として親しまれていたことが、なぜか印象に残り、幼い頃のわずかな記憶とともに、浅間の山名を覚えていたように思います。

その浅間山は、今まで登った山とは、景色がまるで違っていました。第一外輪山の稜線から初めて全貌が見えた時は、どーんと構える雄大で美しい山でした。広い裾野にカラマツが点在する一幅の日本画のようでした。第二外輪山である前掛山の山腹を修行のように強風に耐え、鼻水をすすりながら登りつめて見えた風景は、登山口からは想像もできない荒涼としたものでした。警戒レベルが１に下がっているので、前掛山まで立ち入ることができ、現在その山頂が浅間山山頂ということになっているようです。山頂からは、火口がすぐ近くに見えます。やっぱり活火山でした！大きな活火山でした！時おり火口から水蒸気が立ち昇ります。登山者が多く、風が強いため、写真もそこそこに下山開始するしかなく、それでも１０分ほど下ったシェルターの前あたりは、風も若干弱まっています。そこで小休止のはずが、朝食とも昼食ともわからない、ホテルで準備してもらったおにぎりを頬張りました。

湯の平の落葉松と浅間山

その間も列をなして山頂を目指す登山者が多く、前掛山の下山には、すれちがいにも難儀するほどでした。

賽の河原の分岐まで戻りました。そのまま来た道を戻るか、Ｊバンドを登って第一外輪山を縦走するかのどちらを行くか、前掛山から戻った時点で時間をみて決めることになっていました。ピストンすれば長い草すべりの登りがあり、外輪山周回では距離があります。協議の結果、外輪山の縦走に決まりましたが、結果としてこのコースを選んで大正解でした。

変化に富んだ稜線歩きは飽きることなく、仙人岳・蛇骨岳・黒斑山と軽いアップダウウンを繰り返し、始終絶景を堪能できました。左手に、先ほど降りてきた前掛山のその大きな裾野のカラマツ林や草紅葉、右手には、嬬恋高原、その奥の四阿山、草津白根山など雄大な風景が眺められ、山座同定も楽しく、人が少ない歩きやすい稜線でした。もちろんみんな絶景に大歓声です。また、私は南木佳士※の愛読者なのですが、その著書にでてくる浅間山の全貌を知ることができ大変よかったです。

ホテルの夕食

全員無事に車坂峠の登山口に戻ったのは、午後 4 時半で、じつに 12 時間の山行でした。思い出に残る 12 時間でした。歩いてくれた自分の脚に感謝です。

今回の 20 周年企画山行は、初日に立ち寄った布引観音、高峰山トレッキング、池の平湿原、全山黄金色に染まる落葉松の黄葉と佐久平の夜景とコース料理のすてきな高峰高原ホテル等々、どれもこれもすべてが感動と感激でした。中でも 4 時半からヘッデン〈ヘッドランプ〉を点けて霜柱を踏みしめ樹林帯を登り、稜線に出た瞬間のご来光は予期していなかったため、最高の感動でした。こんなジャストタイミングでご来光を拝めるなんて奇跡に近い！三島野ＳＣ20 周年の語り草になるのではないかと思います。雲海もすばらしく八ヶ岳の横に富士山もくっきり見えました。先頭を行った堀井Ｌの適切な時間配分か、メンバーの日ごろの行いが良すぎたのか、神がかり的な何かを感じた一瞬でした。

稜線に出た瞬間のご来光

入会 2 年目で、幸運にも 20 周年企画に参加させていただきありがとうございました。企画から予約等準備していただいた堀井Ｌに感謝申し上げます。快晴に恵まれ、すてきな仲間とすばらしい時間がもてたこと、すべてに感謝します。

※ 南木佳士（なぎけいし）本名 霜田哲夫

南木佳士は 1951 年、群馬県に生まれました。秋田大学の医学部を卒業し、内科医として働きます。難民救済医療団に加わり、カンボジアやタイでも活動しました。

医療活動の傍らで執筆活動を行い、1981 年『破水』で文學界新人賞を受賞。その後 1989 年に『ダイヤモンドダスト』で芥川賞を受賞します。

南木佳士の作品は医療従事者が主人公となることが多く、医師ならではの死生観が反映されています。また、うつ病の克服や信州での生活といった自身の経験が設定として使われることが多く、物語に深みを与えているのです。

クラブの会報№210「書籍紹介」コーナーで南木佳士の著書『山行記』『草すべり』を紹介しました・

1997 年に設立準備をはじめて、1999 年に三島野スポーツクラブが発足し、2018 年は満 20 年目にあたる年でした。その記念企画の第二弾と銘うって今回の「浅間山」を実施しました。参加者が想定より少なかったのは残念でしたが、天気予報が外れて絶好の山日和となって“20 周年記念”にふさわしい中身の濃い山行となりました。　（堀井）

山行報告　11/3（土）天蓋山　岐阜県飛騨市 1527.2m

メンバー

〈L〉塚　良昭、〈SL〉岩井富雄、的場邦夫、堀井泰則、林　憲彦、加藤日出子、松田光恵、 棚田清志、宮本久子、竹内啓子、川渕順正、甲　かほる、松田理恵子

【行程記録】

薬勝寺Ｐ 6:30 → 山之村キャンプ場着 8:20 → 登山口出発 8:40 → 標高 1150mここから急坂 9:35 → 土塁跡 10:21 → 雀平 10:32 → 天蓋山頂上 11:10～12:00 → 雀平 12:27 → 登山口着 13:50 → 割石温泉着 15:10 → 薬勝寺Ｐ 17:10

ひとくち感想

林　：一口感想「春夏秋冬（冬は登っていませんが）いつ登っても楽しい山でした。周りの山々も遠くまで望め、次回は山座同定のスマホアプリを使いこなせるようにしたいと思っています。ナナカマドの赤い実と青空のコントラストが今でも瞼に残っています」

甲　か：私の今年１番の紅葉を見てきました。サクサク落ち葉を踏みながら頂上へ。大展望台です。新雪を抱く薬師岳、北ノ俣岳、黒部五郎が大きく見えました。体の温まる石割温泉にはいって元気になって帰宅。たくさんお世話になりありがとうございました。

岩　井：よい天気に恵まれ、登山開始から下山までおしゃべりしながら終始賑やかな登山になり本当に楽しい一日になりました。

竹　内：カサコソと鳴る落ち葉、青い空と白い雲、そして 360 度見渡せる頂上。ホンマに良かったワァ！

的　場：今まで三島野で何回も天蓋山の山行が企画されたけど何故か自分は天蓋山に縁が無く今回ようやく参加することができました。アクセスの林道の紅葉が素晴らしかったが天蓋山頂上付近は遅かった。が、展望は素晴らしく 360 度見渡せました。良い山でした！！

堀　井：今から 20 数年前に登山を始めたときに始めて登って山がこの山でした。登山道に敷きつめられた落ち葉を踏んで登る晩秋の天蓋山が好きです。みんなに遅れることなく頂上に立てたことにホッとし、また次への意欲が湧いてきました。

加　藤：是非天蓋山でハーモニカをと念願し決行。譜を覚え吹くのがやっとだが叶って嬉しい！疎らに拍手「ありがとう」聞かせる演奏にはまだまだですが、ノートレにと山頂では最高だ♪

塚　：登山道が広く整備され、登り易く手ごろな山と感じた。残雪期のカンジキ登山、新緑の頃の山菜採りにも行きたい山だ。山頂の 360 度の展望が素晴らしい。

棚　田：なかなか登れなかった山にやっと行くことができました。登山口は紅葉が盛りでしたが、頂上近くは初冬の趣で季節の移ろいを感じる良い山行でした。

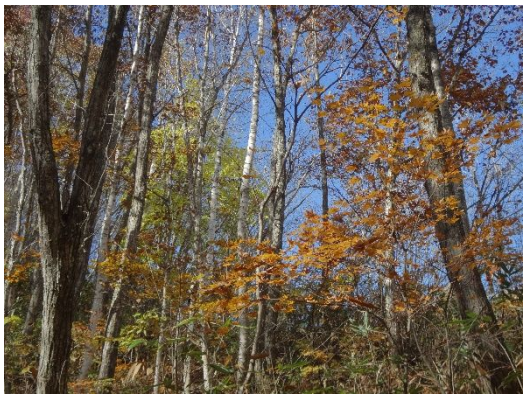
宮　本：天候に恵まれ、和気あいあいながらパワー溢れるメンバーの皆と一緒に紅葉の天蓋山を満喫し石割温泉とのセットに大満足です。

川　渕：晩秋の好天の一日。青空の下、山麓は紅葉が真っ盛りで眩しい。山腹に入ると、今まさに木々は盛んに落葉しており、また山頂付近では既に落葉し尽くして、幹と枝のみとなった木々が明るい。その中を、乾ききった落ち葉をカサコソ踏みしめての登頂は、太陽の香りがして、晩秋の里山ならではの魅力満喫でした。下山時には、山之村食堂「夕顔の駅」で、「ダッタンそば」なる珍しい新蕎麦を食することが出来ました。楽しい山行をありがとう。

松田り：登山口当たりの紅葉は見事でした。落ち葉に着いた菌糸を確認しながら晩秋の風情を見せてきた山道をおしゃべりしながら歩き、最高の見晴らしの山頂へ。みんなで登る山行の楽しさを満喫しました。

天蓋山山頂は見事な 360 度の眺望

松田光恵



朝から晴れて絶好の山行日和である。薬勝寺駐車場を予定通り出発。神岡から双六川沿いを走る車の窓からは、見事に紅葉した山々が拡がる、快適なドライブだ。山吹峠を越え暫くして山の村キャンプ場駐車場に到着。周辺は鮮やかに紅葉している。予定時刻より早く到着し、準備を終え出発。ゆるい登りを川沿いにすすむ。しばらくは白樺の林を進む。川淵にイワナを見つける。あちこちの淵に魚影を探しながら登るが、簡単には見つからない。沢越えを繰り返しながら、また、所々ぬかるんだ場所もあった。白樺やブナの林を歩く。だんだん落ち葉が道を覆いサクサク音を愉しむ。落ち葉の下は湿った赤土のため滑りやすい。足下に気を遣いながらも、色づいた木々を愉しむ。楓がたくさんあり黄色や赤色が見事だ。木の根が階段状に這う急坂を歩く。急登を超え、雀平をほぼ予定時刻に通過。ブナの巨木が次々現れる。時々枯れた巨木も。様々な楓の紅葉、黄葉に目を見張る。中腹を過ぎる頃から落ち葉が多くなり、木々の葉は落ち、視界が明るく見晴らしがよい。晩秋の景色だ。その後もアップダウンを繰り返し頂上に到着。先客が十数人。３６０度展望できる、見事な頂。周囲の山を眼下に見、彼方には北俣岳、薬師岳、立山連峰などが見渡せる。残念ながら頂上部は雲の中。富山湾も彼方に霞んでいる。田部井順子揮毫の標識をサークルで囲い、周りの山々が図示してあった。

充分に紅葉した眺望を堪能し、昼食でエネルギーを補充し帰途に就いた。帰途はかなりの下り坂。滑らぬよう気を配りながらの下山は結構疲れる。２時間足らずで無事下山。今回の山行は登坂時間も比較的短く、余裕があった。山頂での休憩もたっぷり、下山後はドライブイン夕顔の駅でアイスクリームを食べ、疲れをいやした。頂上付近の紅葉がピークを過ぎていたこと、北アルプスの山並み上部が雲に隠れていたのが心残り。次回の山行を期したい。

富山マラソン

三年ぶりに参加・完走しました

岩井富雄

１０月２８日に行われた「富山マラソン」に第一回大会参加以来３年ぶりに参加しました。

天候は曇り空時々小雨が降る中スタートの瞬間待つ、2回目の参加で気持ちは余裕を持てた。初参加時より約3000人多い13718人力走、12255人完走（翌日の新聞によれば）私は会員の岩越さん、宮本さん、元会社同僚、友人、家族、沿道では幼稚園児から小中高生、大人まで熱い声援をいただき元気をもらいながら完走前回より20分遅れの5時間9分48秒、ネットタイム5時間04分でゴールすることができました。三島野スポーツクラブから3人エントリーし高井増美さん完走されましたが、1人が15ｋｍ付近で体調不良のため棄権されました。わたくしは今後、ハイキング、登山をいつまでも出来るようにと思い一週間に2～3回位ランニングしながら参加する気持ちなればまた参加したいと思っています。

〔三島野スポーツクラブ世話人会〕

任務分担	氏　　名	住　　所	TEL	携帯
代　表	岩井　富雄	射水市宝町 1364-35	57-8180	090-5177-9255
副代表	背渡　健治	高岡市五福町 11-45	23-2446	090-7080-2617
副代表	的場　邦夫	氷見市十二町 1037-36	74-6434	090-4320-5325
会計担当	荒井　英治	射水市上野 465		080-8695-6639
会報担当	堀井　泰則	高岡市石瀬 748-6	25-2792	090-1314-6394
事務局	小坪　哲彦	射水市中太閤山 5-59	56-3028	090-4684-4198

世話人会は上記の方々と、川渕　順正、林　　憲彦、山本　則夫、岩越　理代、加藤日出子、甲　　厚子、塚　良昭、新田俊明で構成します。　　〔相談役〕山田　格　　〔監事〕上田　千秋、竹内　啓子

12月の世話人会開催は**12月4日（火）と12月18日(火)**の午後7時からです

会場は**中太閤山コュミニティーセンター**です。

編集後記

◇ 2018年の年の瀬を迎え会員諸氏はどんな思いで一年を振り返り、来る年に何を期しておられるだろう。杯を交わしながら語る・・・忘年会がその機会です。久しい顔に逢い、懐かしい声を耳にすることを楽しみにしています。

◇ 当クラブが発足して満20年の2018年でした。その記念企画第二弾「浅間山」は充実した山行だったことが感想から伝わります。20年の歴史に重ねた活動は自讃してもいいだろう。何より、無事故だったことは誇るべき実績です。これからも“初心忘れず”“褌を締め直して”安全登山の歴史を重ねたいものです。

◇ 天蓋山は多くの参加者でにぎやかな山行となりました。何よりこの日に好天が巡ってきたことが心を弾ませ、降り積もった落ち葉を踏む登山道は快適ですね。

◇ これからの季節は時雨れる日が多くなり、雪も降ってきます。そんな条件のなかで雲が流れて現れる景色を山で楽しむのも一興だろう。

会報についてのご意見などお寄せください。山の出来事の面白い話も。

堀井まで　Eメールアドレス horii.yasunori@rouge.plala.or.jp

ＦＡＸ&☎　0766-25-2792　　携帯 090-1314-6394

ネットで会報の閲覧ができます。〔三島野スポーツクラブ〕を検索し、〔会報〕をクリックするとこれまでの発行済みの会報が全頁フルカラーで見ることができます。